

3. 11から丸11年目を迎えるにあたり

2022年3月11日

特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク
役職員一同

1. 基本認識

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下、「3. 11」という。）から、丸11年が経ちました。復興は進んでいるのでしょうか！？進んでいると感じる人も、そうでないと感じる人もいます。

まだ、3万人近い人たちが、県外へ避難しています。双葉町は、全町民の避難が続きます。2021年2月には、最大震度6強の余震が福島県沖で発生しました。

廃炉が進んでいると言います。しかし、廃炉が完了する時期を見通すことは不可能と言われていています。さらに、廃炉後のまちの姿は、11年が経ちますが、まだ描くことができないままです。

3. 11からの復興は、まだ緒についたばかりです。

2. 復興の方向性

私たちは、被災地・ふくしまの当事者として、被災者・避難者・被災地・支援者と共に、歩みます。

私たちは、6月に予定している定款変更において、第1の事業として「東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故からの復興に係る事業」を改めて、掲げます。

3. 取り組み

当面（2022-23年度）、下記の事業に取り組めます。

- (1) 相談窓口の開設（継続）
- (2) 復興活動、支援活動する団体の資金調達支援事業（継続）
- (3) 被災地・ふくしまの「今」を届ける事業（情報の収集と発信）（強化）
- (4) 被災地・ふくしまの「2030年の姿」をみんなで描く事業（新規）
- (5) 復興活動における連携とネットワークの構築を進める事業（強化）

4. まとめ

コロナ禍と国際紛争という現下、であるからこそ、被災地・ふくしまの復興活動を通し、範となる「何か」を、福島県内外、日本国内外に示したいと考えています。この考えを、言動で表現します。